

## 折に触れ 四字熟語

### NO. 127 『竜騰虎闘』 りゅうとう ことう

< 意味 > 力の伯仲する二者が、力を尽くして激しく戦うこと。雌雄を決するような激戦を繰り広げること。

語 釈 : 「騰」は勢い盛んに天に昇ること。「竜」は「りょう」とも読む。

用 例 : 竜騰虎闘の壮観があるだろうと予期した交渉は、かくのごとく散文的な談判をもって無事に、迅速に結了した。主人のさかんなるはただ意気込みだけである。<夏目漱石・吾輩は猫である>

一 言 : サッカーを漢字で書くと「蹴<sup>しゅう</sup>球<sup>きゅう</sup>」、テニスは「庭<sup>てい</sup>球<sup>きゅう</sup>」、バスケットボールは「籠<sup>ろう</sup>球<sup>きゅう</sup>・藍<sup>らん</sup>球<sup>きゅう</sup>」です。ここらあたりまでは馴染みがあるかも知れませんが、「闘<sup>とう</sup>球<sup>きゅう</sup>」はなんでしょうか。いま、日本中が台風による被害を忘れさせるほど盛り上がっている「ラグビー」のことです。各国の熱戦を観ていると、まさしく闘う球技であると実感させてくれます。

参照文献 : 岩波書店「四字熟語辞典」